

2020年度 明治大学  
【情報コミュニケーション学部】

解答時間 60分



配点 100点

め

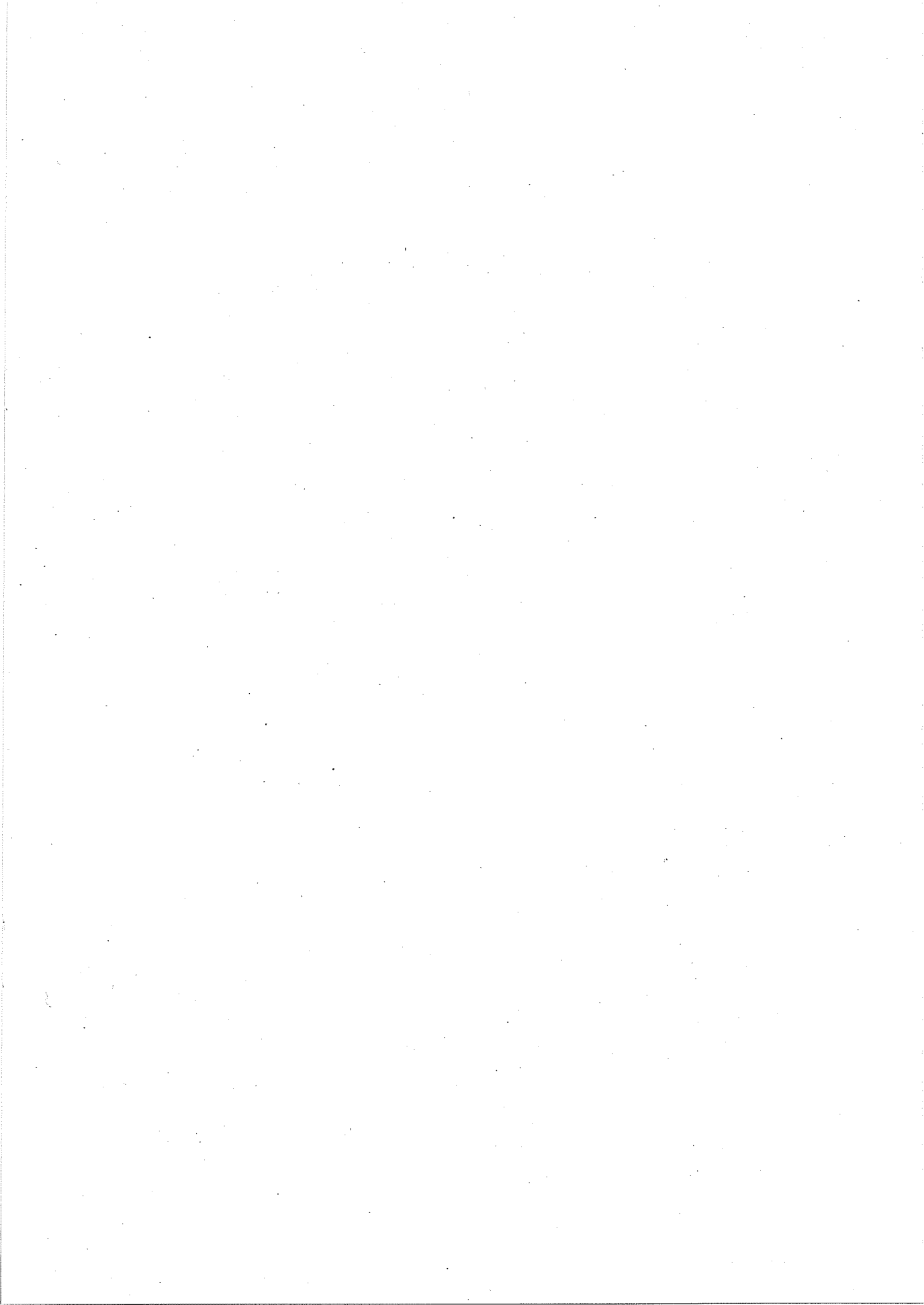
世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は23ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入のこと。
7. 解答は楷書で丁寧に記述すること。判読できない場合には誤答とみなすことがあるので、注意すること。
8. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
9. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
10. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. 試験時間は60分である。
12. マーク記入例

| 良い例   | 悪い例   |
|---|---|
|  |  |





〔 I 〕 次の文章をよく読み、問 1 ～ 6 に答えなさい。

東南アジアは、大陸部と諸島部からなり、香辛料をはじめとする資源の豊かさゆえに、はやくから外の世界とつながり、古くはインドや中国、ついでイスラーム教の影響をうけつつ独自の文明が築かれた。大陸部では、6世紀にメコン川中流域にクメール人によってカンボジア(真臘)が興り、東南アジア最古の国家ともされる扶南を滅ぼした。8世紀にカンボジア(真臘)は南北に分裂したが、9世紀には  が両勢力を統合してアンコール朝を創設した。この王朝では、神聖化された王権のもとで王城やヒンドゥー教・仏教の大寺院がつぎつぎに建立された。ベトナムは、中国の支配下にあった時代に、生活の諸面にわたって中国文(1)化を導入してきた。諸島部では、7世紀半ばにスマトラ島の  を中心地とするシュリーヴィジャヤ王国が興り、また中部ジャワでは、8世紀にヒンドゥー一国の  がうまれた。

11世紀から15世紀にかけて、東南アジアでは民族分布・政治勢力・宗教分布のいずれにおいても大きな変化が見られた。また13世紀後半の元朝によるたび重なる侵攻は、東南アジアの諸王朝に打撃を与えた。

東南アジア地域では、16世紀に入ってヨーロッパの諸勢力があらたに進出し始めた。インド航路を開拓したポルトガルは、1510年にインドのゴアを占領して、これをアジア貿易の根拠地とし、それまで香辛料貿易を独占していたムスリム商人と競合しながら、スリランカ・マラッカ・モルッカ諸島などもその支配下においていった。スペインは、フェリペ2世時代にフィリピンを領有し、これを(2)メキシコと結んで、マニラを拠点としたアジア貿易を展開した。また、オランダやイギリスもそれぞれの東インド会社を設立して交易活動に参加し始め、たがいに競争しながらポルトガルやスペインをおさえ、東南アジアからインドに勢力をのぼしていった。16世紀から17世紀に東南アジア海域に参入したヨーロッパ諸勢力は、初期には商業権益の拡大をめざしたが、しだいに領土の獲得へと移行していった。19世紀になると、オランダ政庁による直接支配のもとで、コーヒーやサトウキビなどの商品作物がジャワ島に導入された。そして、本国の財政状況が悪化すると、オランダはそのたて直しのために強制栽培制度を導入し、莫大な(3)

利益をあげた。

19世紀以降の東南アジアの各地域では、植民地支配への対抗原理を構築する運動が起こり、民族意識を形成し始めた。そして、第二次世界大戦後、東南アジアの諸地域はつぎつぎと独立に向かった。フィリピンは、1946年にフィリピン共和国として独立した。オランダ領東インド<sup>(4)</sup>では、1945年にインドネシア共和国の成立が宣言され、オランダは武力で介入したが失敗し、1949年、インドネシア共和国は独立を達成した。フランス領インドシナでは、終戦直後にホーチミンがベトナム民主共和国の独立を宣言したが、フランスはこれを認めず、1946年にインドシナ戦争が起こった。またビルマ(ミャンマー)はイギリスとの<sup>(5)</sup>交渉により、1948年にイギリス連邦から離れて独立した。同じくイギリス領であったマレー半島は、1957年にマラヤ連邦として独立し、1963年にシンガポールやイギリス領  と合体してマレーシアとなったが、1965年に中国系住民を中心としてシンガポールが分離、独立した。

1967年にインドネシア・マレーシア・フィリピン・シンガポール・タイの5ヵ国で結成された東南アジア諸国連合(ASEAN)は、2018年時点では  を除く東南アジア10ヵ国が加盟しており、当初は社会主義勢力に対抗した域内連合であったが、ベトナム戦争の終結とともに域内外の政治的・経済的協力をうたう組織へと変化した。

問1 空欄1～5にあてはまる最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問2 下線部(1)に関連して、陳朝時代に漢字を利用して作られたベトナムの文字は何と呼ばれるか。解答欄に記入しなさい。

問3 下線部(2)について、マニラとメキシコ間で行われたアカプルコ貿易において主に使用された大型の帆船は何と呼ばれているか。解答欄に記入しなさい。

問 4 下線部(3)について、1830年からジャワ島を中心にこの制度を始めたオランダ領東インド総督は誰か。その名前を解答欄に記入しなさい。

問 5 下線部(4)に関連して、ヨーロッパ留学中に『われにふれるな』を書いて植民地統治を批判し、帰国後フィリピン民族同盟を組織して平和的方法による独立を主張した人物の名前を解答欄に記入しなさい。

問 6 下線部(5)について、この戦闘の休戦が実現した背景にはフランスが建設したベトナム北西部の根拠地が陥落したことがあるが、この町の名称を解答欄に記入しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、問1～6に答えなさい。

アメリカ合衆国の独立は、広大な領土の国でも共和政が実現可能であることを示した。このアメリカの独立を、18世紀後半から19世紀初めのフランス革命やラテンアメリカ諸国の独立とともに、Aとして、ひとまとめに把握する見方もある。1800年には新たに首都としてワシントン(コロンビア特別区)が建設された。

独立直後からアパラチア山脈以西への移住が解禁され、西へと領土が拡大していった。1803年にはミシシッピ川以西のルイジアナを、1819年にはBを買収して、領土は著しく拡大された。こうした領土の拡大は、独立当時からあった地域的な経済のありかたの違いをさらに広げた。南部ではイギリスなどへの綿花輸出が拡大し、自由貿易を支持する声が高まりを見せた。これに対して産業革命が進んでいた北部では、保護関税政策をとって資本主義をさらに発展させようとした。南部諸州は奴隷制を西部へ拡大し、それによって連邦議会で優位な地位をしめようとした。北部諸州はこれに対抗して、自由州を拡大しようとした。

第7代大統領のジャクソンは、西部出身であり、農民や都市下層民を重視する姿勢をアピールして、大統領に当選していた。そして南部を主な基盤として民主党の結成を進めた。北部では連邦派が企業家から多くの支持を得ていたが、そこからC党が発展し、やがてそれにかわって共和党が結成された。ジャクソンは先住民をミシシッピ川以西に設定した保留地に強制的に移住させた。

北部諸州と南部諸州の対立は、1820年にはDが結ばれいったん沈静化した。だが、1854年にカンザス・ネブラスカ法ができると、再び厳しくなり、共和党は奴隷制反対を唱えるに至った。1860年の大統領選挙で共和党のリンカンが当選すると、南部諸州は連邦からの分離を決め、アメリカ連合国を結成した。これによって南北戦争が始まり、大きな被害を双方にもたらしたが、結局北軍が勝利した。戦争中に奴隷解放宣言が出され、連邦憲法の修正によって奴隷制は廃止されたが、南部諸州は北軍が撤兵すると州法などによって黒人の投票権を制限したりし、黒人への差別待遇は改まらなかった。奴隷から解放された黒人

には農地の分配が行われなかったので、黒人の多くは E として貧しい生活を余儀なくされた。

問 1 文中の空欄A～Eにあてはまる最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 下線部(1)について、ラテンアメリカ独立運動の中心となったのはクリオリョの大地主層だったが、住民にはメスティーソやインディオなどのほかに、黒人と白人の混血の人たちもいた。その人たちは何と呼ばれたか、解答欄に記入しなさい。

問 3 下線部(2)で、綿花の輸出を拡大するきっかけとして綿繰り機が発明されたが、その発明をした人物は誰か。解答欄に記入しなさい。

問 4 下線部(3)で、先住民のチェロキー族は約 1300 キロの移動の過程で、約 4000 人が病気と飢餓で命を落としたとされる。その移動は何と呼ばれたか、解答欄に記入しなさい。

問 5 下線部(4)について、アメリカ連合国の大統領になった人物は誰か。解答欄に記入しなさい。

問 6 下線部(5)について、南軍ではリー将軍が活躍したが、北軍の総司令官で後に第 18 代大統領になった将軍は誰か。その人物の名前を解答欄に記入しなさい。



〔Ⅲ〕 次の文章A～Jをよく読み、下線部(1)～(4)のうち、適切ではないものを一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

A 春秋・戦国時代には諸子百家と総称される多様な思想家が誕生した。『漢書』<sup>(1)</sup>を記した班固は代表的な思想として9つの学派をあげている。諸子百家の中で後世にもっとも大きな影響を与えたのは、親に対する「孝」という身近な家族道徳を社会秩序の基本においた孔子を祖とする儒家の思想である。その他、血縁<sup>(2)</sup>をこえた無差別の愛(兼愛)を説いた墨家や、君主が法と策略によって国家を統治すべきだとする法家の思想などがある。法家の商鞅は秦の始皇帝に仕え、富国強兵をすすめた。<sup>(4)</sup>

B 魏・呉・蜀の三国が分立する三国時代を経て、魏の将軍である司馬炎は蜀に続いて呉をも滅ぼし、晋(西晋)を建国した。<sup>(1)</sup>しかし、帝位をめぐる一族の争い<sup>(2)</sup>(八王の乱)が晋の支配をゆるがし、五胡が勢力をのばして各地で蜂起した。その結果、晋(西晋)は滅んだが、司馬睿が江南の建康で即位し、晋(東晋)を復興した。しかしながら、その東晋も劉裕によって倒され、宋がたてられた。その後、齊・梁・陳の各王朝が短期間に興亡した。やがて、陳は隋の文帝(楊堅)によって滅ぼされた。<sup>(3)</sup><sup>(4)</sup>

C 7世紀末、高宗の皇后であった韋后が帝位につき、科挙官僚を積極的に任用<sup>(1)</sup>した。8世紀初めに即位した玄宗の時代には、均田制・租調庸制とともに府兵制もくずれ、募兵制が採用された。<sup>(2)</sup>玄宗の晩年には、その寵愛を受けていた楊貴妃や楊国忠の一族が実権を握った。<sup>(3)</sup>それに対する反発から節度使の安祿山とその部将の史思明が安史の乱と呼ばれる反乱をおこした。<sup>(4)</sup>

- D 遼河上流の契丹は、ウイグルの衰退とともに勢力を強めた。10世紀初めに  
(1)  
は耶律阿保機が強力な国家を形成し、渤海を滅ぼすとともに燕雲十六州を領土  
(2)  
に加えた。契丹は自らの国名について、民族名である「契丹」を用いる時期と、  
(3)  
中国風の「遼」を用いる時期があった。また、遼の太祖らを作ったとされる契丹  
(4)  
文字はウイグル文字と漢字双方の影響を受けるものであった。
- E 完顔阿骨打によって建国された金と、宋は同盟を結び、遼を滅ぼした。しか  
(1)  
し、耶律大石は西方に逃れ、西遼を建国し、契丹文化を維持した。遼を滅ぼし  
(2)  
た金は華北を占領し、宋の都である開封を陥落させ、上皇の徽宗と皇帝の欽宗  
(3)  
をとらえた。江南に逃れた高宗が帝位につき、南京を首都として南宋を建て  
(4)  
た。
- F モンゴル高原では、9世紀中頃にキルギスによってウイグルが滅ぼされて以  
(1)  
来、統一勢力はあらわれなかった。12世紀初めに遼が滅びると、諸部族の間  
で統合の動きが強まり、テムジンがクリルタイでハン位について、チンギス＝  
(2)  
ハンの称号を受け、大モンゴル国を建てた。モンゴル軍は、西夏を奪ったナイ  
(3)  
マンを滅ぼし、ホラズム＝シャー朝を倒して西北インドに侵入した。チンギス  
=ハンの死後即位したオゴタイは金を滅ぼして華北を領有し、モンゴル高原の  
(4)  
カラコルムに都を建設した。
- G 14世紀の東アジアでは飢饉が続き、元朝の支配が衰えた。中国では白蓮教徒  
(1)  
らによる紅巾の乱で頭角をあらわした朱元璋が南京で皇帝の位(洪武帝)につ  
き、明朝をたてた。洪武帝は皇帝のもとに権力を集中させることによって、元  
末の混乱をおさえようとした。まず、元の時代に政治の中樞を担っていた中書  
(2)  
省とその長官の丞相を廃止した。また、農村では全国的な人口調査に基づいた  
(3)  
里甲制を実施し、租税台帳(賦役黄冊)や土地台帳(魚鱗図冊)を整備した。また  
軍制の面では、民戸の戸籍とは別に、軍戸の戸籍を設けて千戸制を編成した。  
(4)

H 明は海禁政策をとり、朝貢貿易を推進した。永楽帝は、イスラーム教徒の宦官である鄭和をインド洋から大西洋にまで遠征させた<sup>(1)</sup>。日本では、遣唐使停止以来とだえていた朝貢が復活し、足利義満は「日本国王」として冊封を受け、勘合貿易を行った。中山王の尚巴志によって統一された琉球も明に朝貢して冊封を受けた<sup>(2)</sup>。ベトナムの黎朝も明との朝貢関係を結び、明の制度を取り入れ、朱子学を振興することにより、支配を固めた<sup>(3)</sup>。

I 清朝では、イエズス会の宣教師を技術者として重用した。暦の改定に貢献したアダム＝シャル(湯若望)や、順治帝に招かれてアダム＝シャルを補佐したフェルビースト(南懷仁)をはじめ、円明園の設計に参加したカステイリオーネ(雷孝思)や「皇輿全覽図」作成に協力したブーヴェ(白進)らがそうであった<sup>(4)</sup>。これらのイエズス会宣教師は布教にあたって中国文化を重んじた。

J 18世紀後半、広州における貿易では、イギリスをはじめとした欧米向けの紅茶貿易が激増していた。ところが、産業革命で生産をのばしていたイギリス産の綿製品であったが、その需要は中国では多くはなく、イギリスから中国への一方的な銀の流出が続いた<sup>(1)</sup>。そのため、東インド会社は、中国産の茶をイギリスに、イギリスの綿製品をインドに、インド産アヘンを中国に運ぶ三角貿易を開始した<sup>(2)</sup>。アヘンの輸入増大に伴って、中国の銀の流出が増加したため、清朝の乾隆帝はアヘン厳禁論を採用し、林則徐を広州に派遣して取り締まりを強化した<sup>(3)</sup>。人の健康を害するアヘンの貿易についてはイギリス国内でも批判が多かったが、イギリス政府は自由貿易の実現をとなえて海軍の派兵を決定し、1840年にアヘン戦争をおこした<sup>(4)</sup>。

〔IV〕 次の文章をよく読み、下線部(1)～(10)に関する問1～10に答えなさい。

6世紀後半、ササン朝とビザンツ帝国との長期にわたる戦争状態の影響を受けて、東西を結ぶ交易路である「オアシスの道」は両国の境界で途絶え、ビザンツ帝国の国力低下に伴い紅海貿易も衰退した。そのため、「オアシスの道」や「海の道」によって運ばれていた交易品はいずれもアラビア半島西部を経由するようになった。<sup>(1)</sup>

610年頃、アラビア半島のメッカに生まれたムハンマドはイスラーム教を創唱した。しかし、富の独占を批判するムハンマドはメッカの有力者による迫害を受けたため、622年に少数の信者とともにヤスリブ(メディナ)への移住を余儀なくされた。ムハンマド移住後のメディナはメッカと戦争状態になり、630年にムハンマドはメッカを征服した。

632年のムハンマドの死後、イスラーム教徒たちは共同体の指導者としてカリフ<sup>(4)</sup>を選出した。アラブ人はカリフの指導の下で大規模な征服活動を開始した。その後、661年に成立したウマイヤ朝は征服活動を引き継ぎ、さらなる征服地を獲得した。<sup>(5)</sup>しかし、ウマイヤ朝の統治に批判的な人々が次第に台頭するようになり、アッバース家を支持する勢力がウマイヤ朝の軍隊を追って西進し、750年にアッバース朝が成立した。アッバース朝が建てられると、756年にウマイヤ朝の<sup>(7)</sup>一族はイベリア半島において後ウマイヤ朝<sup>(8)</sup>をたてた。

アッバース朝はハールーン＝アッラシードの時代に最盛期を迎えたが、その死後から次第に衰えてゆく。10世紀初めに建国されたファーティマ朝<sup>(9)</sup>は北アフリカで広大な領土を獲得し、アッバース朝に対抗した。

ムハンマドによるイスラーム教の創唱から数世紀の間に、イスラーム世界は古代オリエント文明やヘレニズム文明など、古くから多くの先進文明が栄えた地域に形成された。イスラーム文明<sup>(10)</sup>は、これらの文化遺産と、征服者であるアラブ人がもたらしたイスラーム教とアラビア語とが融合して生まれた新しい文明であった。

問 1 下線部(1)「アラビア半島」に関する記述として適切ではないものを次の①～

④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 大部分は砂漠に覆われていたが、南部のイエメン地方などでは降雨に恵まれた農耕地帯も存在した。
- ② 古くからアラブ人が、地域ごとの自然環境に応じて、羊やラクダなどの遊牧、隊商による商業活動、小麦やナツメヤシなどを栽培する農業などに従事していた。
- ③ 「オアシスの道」や「海の道」の衰退に伴い、アラビア半島のヒジャーズ地方にあるメッカの商人たちは中継貿易によって大きな利益を上げるようになった。
- ④ 当時のアラブ人の大多数はユダヤ教かキリスト教を信奉しており、メッカはその参詣地として栄えていた。

問 2 下線部(2)「ムハンマド」に関する記述として最も適切なものを次の①～④の

中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① メッカを支配するクライシュ族のハーシム家に属する遊牧民であった。
- ② 唯一神アッラーの子であると主張し、イスラーム教の教えを人々に説いた。
- ③ メッカ征服後、カーバをイスラーム教の聖殿に定めた。
- ④ ムハンマドのヤスリブ(メダイナ)への移住をヒジュラ(聖遷)という。純粹な太陽暦であるイスラーム暦は、ヒジュラが行われた年の年初を紀元元年1月1日としている。

問 3 下線部(3)「イスラーム教」に関する記述として適切ではないものを次の①～

④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① イスラーム教の聖典『コーラン(クルアーン)』は、ムハンマドに下された神の言葉の集成とされており、アラビア語で記されている。
- ② 教義の中心はアッラーへの絶対服従であり、そのおきては信仰生活だけでなく、政治的・社会的・文化的活動のすべてにおよんでいる。
- ③ イスラーム教徒が信者として信仰すべきことの基本となる六信とは、アッラー、天使、悪魔、預言者たち、来世、神の予定(定命)を信じることである。
- ④ ムハンマドは『旧約聖書』と『新約聖書』をイスラーム教に先立つ啓示の書と見なし、ユダヤ教徒とキリスト教徒は「啓典の民」として認められた。

問 4 下線部(4)「カリフ」について、最初の4人のカリフは共同体の合意によって選出されたことから、「正統カリフ」と呼ばれる。正統カリフの就任順として最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① アブー＝バクル → アリー → ウスマーン → ウマル
- ② アブー＝バクル → ウマル → ウスマーン → アリー
- ③ アブー＝バクル → ウスマーン → ウマル → アリー
- ④ アブー＝バクル → ウスマーン → アリー → ウマル

問 5 下線部(5)「征服活動」に関する記述として適切ではないものを次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ジハード(聖戦)は、共同体(ウンマ)の防衛・拡大のためにイスラーム教徒に課された義務とされる。
- ② 636年のカーディスィーヤの戦いでは、アラブ人イスラーム教徒の軍がビザンツ帝国軍を撃破した。
- ③ 642年のニハーヴァンドの戦いで、ウマルによって派遣されたアラブ人イスラーム教徒の軍がササン朝を撃破した。
- ④ 征服地には軍営都市であるミスルが建設され、多くのアラブ人が家族を伴って移住した。

問 6 下線部(6)「ウマイヤ朝」に関する記述として最も適切なものを次の①～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① シリア総督のムアーウィヤはバイルートにおいてウマイヤ朝を開き、カリフ位の世襲を開始した。
- ② 8世紀初め、ウマイヤ朝カリフのワリード1世の命によって、ウマイヤ=モスクの建設が始められた。
- ③ 8世紀初め、東方では中央アジアのソグディアナ、インド西部、西方では北アフリカを征服し、やがてイベリア半島に進出して東ゴート王国を滅ぼした。
- ④ 当初はイスラーム教徒に課されていたハラージュは、ウマイヤ朝末期から非イスラーム教徒にも課されるようになった。

問 7 下線部(7)「アッバース朝」に関する記述として最も適切なものを次の①～④

の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 公用語はアラビア語であったが、民族による差別は廃止され、イスラーム法(シャリーア)に基づく政治が行われた。
- ② アブー＝アルアッバースがイランでカリフとして即位し、アッバース朝が開かれた。
- ③ アッバース朝第2代カリフのマンスールは、肥沃なイラク平原の中心に方形の首都バグダードを建設した。
- ④ ベルベル人を中心とする新改宗者も政府の要職に就けられるようになり、宰相の統率する官僚制度が発達し、行政の中央集権化が進んだ。

問 8 下線部(8)「後ウマイヤ朝」に関する記述として適切ではないものを次の①～

④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ウマイヤ家のアブド＝アッラフマーンによって、グラナダを首都として建国された。
- ② アッバース朝と対抗関係にあったものの、アッバース朝で発達した学問や文化を積極的に吸収して、高度なイスラーム文明を生み出した。
- ③ 後ウマイヤ朝はアブド＝アッラフマーン3世の治下で最盛期を迎えた。また、彼はそれまでのアミールという称号にかえて、カリフの称号を用いた。
- ④ 8世紀後半に建立されたコルドバの大モスクは、スペイン語でメスキータと呼ばれる。その礼拝堂には赤と白に彩られたアーチと円柱が整然と並んでいる。



問 9 下線部(9)「ファーティマ朝」に関する記述として最も適切なものを次の①～

④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① シーア派の一分派であるイスマール派によってモロッコで建てられた王朝である。
- ② 建国当初はアミールの称号を用いたが、後にアッバース朝に対抗してカリフの称号を用いた。
- ③ 969年にエジプトを征服し、新たな首都としてフスタートを建設した。その後、シリア・アラビア半島にも勢力を伸ばした。
- ④ サラディン(サラーフ=アッディーン)はファーティマ朝を滅ぼしてアイユーブ朝を樹立した。

問10 下線部(10)「イスラーム文明」に関する記述として適切ではないものを次の①

～④の中から一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 歴史学者イブン=ハルドゥーンは『世界史序説』を著して、都市と遊牧民の交渉を中心に、王朝興亡の歴史に法則性があることを論じた。
- ② 9～10世紀に活躍したタバリーは、年代記構成の歴史書である『預言者たちと諸王の歴史』を編纂した。
- ③ 9世紀、アッバース朝第7代カリフのマームーンはバグダードに「知恵の館(バイト=アルヒクマ)」を設立した。
- ④ フワーリズミーは数学・天文学に精通し、ジャララー暦の制定に参加した。また、詩人としては『四行詩集』(『ルバイヤート』)を著した。

[V] 次の文章(イ)および(ロ)をよく読み、設問に答えなさい。

(イ) 以下のA～Eに関する記述の中で、適切ではない文章の記号①～④を解答欄にマークしなさい。

A イタリアは第一次世界大戦で戦勝国であったものの、戦後の講和会議などでは領土拡大などの目的を果たせず、国内での不満がつのっていた。

① 労働運動や、農業労働者による社会運動などが拡大し、1919年には新しい比例代表制による国会選挙で社会党とイタリア人民党が、それぞれ第一党、第二党に躍進した。

② ムッソリーニは、最初はイタリア人民党機関誌編集長であったが、1919年党を離れ、ファシスト党を結成した。社会運動の高まりに革命の恐れを抱いた地主層は、農民運動に対抗する武装行動隊を組織したのちに、ムッソリーニに支持を表明した。

③ 1921年、社会革命に反対する地主層、元軍人、軍部や官僚からも支持を得て、全国ファシスト党としてさまざまな勢力を統合し、1922年には政権掌握のための「ローマ進軍」を組織した。

④ 政府は「ローマ進軍」を阻止するように動いたが、恐れを抱いた国王は、ムッソリーニを首相に任命した。さらにムッソリーニは、選挙の第一党に議席の3分の2を与えるという新法を認めさせて、一党独裁体制への道をひらいた。

**B** 1929年10月、ニューヨーク株式市場で株の大暴落がおり、世界恐慌へと拡大した。

- ① ドイツでは世界恐慌の影響はただちに現れ、失業者の急増と工業生産の低下につながり、ミュラー連合内閣は1930年3月に倒れた。ブリューニング内閣は、ヒンデンブルク大統領など保守派・軍部の意向に沿って、当初から国会多数派工作を断念し、少数派内閣として成立した。
- ② ブリューニング内閣の恐慌対策はデフレと増税を手段としていたが、国会から拒否された。そのために国会は解散され、選挙の結果、ヒトラーが率いる国民(国家)社会主義ドイツ労働者党(ナチ党)が国会の第二党となった。
- ③ ヒトラーはオーストリア生まれで、ドイツに移って第一次世界大戦に参加した。戦後、ドイツ労働者党を創設し、ナチ党の礎を築いた。
- ④ 1930年には国会は機能不全におちいった。その結果、政府が大統領緊急令を用いて立法を行い、国会もそれを否定しないという、いわゆる大統領内閣が成立した。

**C** ブリューニング首相の新内閣の政策は、経済においても外交においても効果が出なかった。ヒンデンブルクはブリューニングを退陣させたあと、パーベン、ついでシュライヒャー將軍を首相に任命したが、国民の支持を得ることは困難であった。そしてヒンデンブルクの有力な対抗馬としてヒトラーへの期待が高まることとなった。

- ① 1933年1月、ヒンデンブルク大統領によってヒトラーは首相に任命され、ナチ党・保守派連立内閣が成立した。
- ② ナチ党は、ラジオなどを政治に積極的に利用し、これまでにない大衆宣伝を駆使し、反対派の選挙運動を徹底的に妨害した。
- ③ ナチ党は選挙期間中に起きた国会議事堂放火事件を利用し、共産党などの左翼勢力を弾圧した。その結果、選挙ではナチ党は単独で過半数を取り、国会での優位を得ることになった。
- ④ ヒトラーは国会召集後、全権委任法を成立させ、他の政党を解散させて一党独裁体制を実現させた。さらに、既存の労働組合も解散させた。

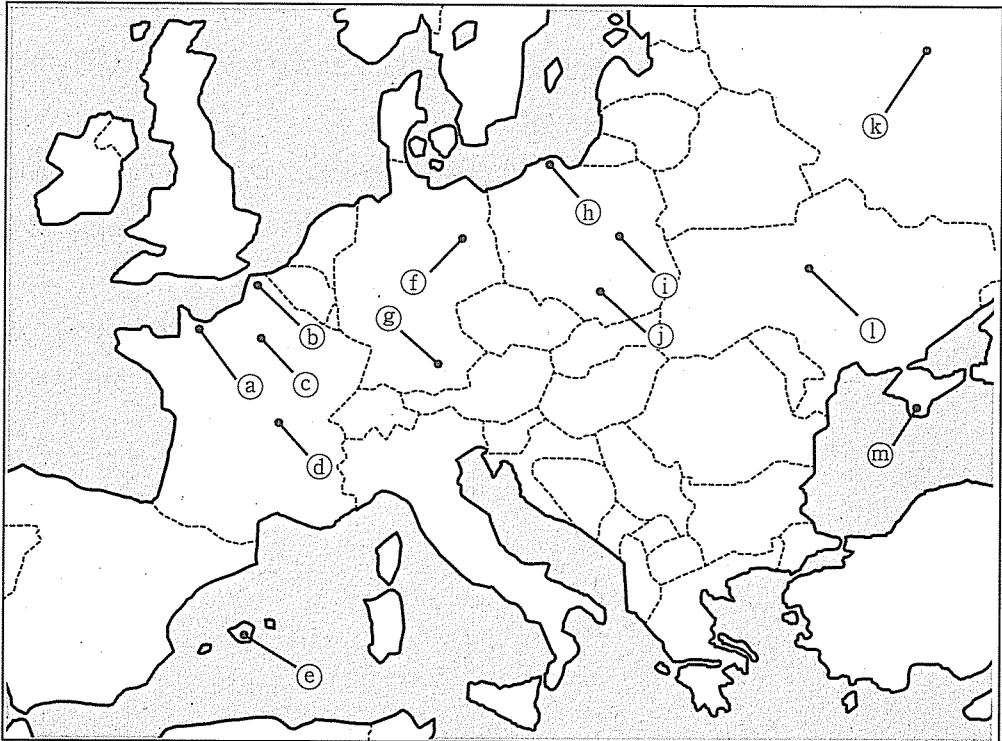
**D** 政権を掌握したナチ党は、国民の支持を得るための政策にも着手した。

- ① ナチ党はユダヤ人排斥を強く主張する人種差別主義を唱え、政治的反抗者や障害者などを強制的に収容した。他方で、収容されなかったドイツ人に対しては基本的人権と市民的自由を保障した。
- ② ナチ党はファシズム体制をイタリアから多く学び、ヒトラーはムッソリーニと長きに渡り友好関係を保っていた。
- ③ ナチスは「四カ年計画」によって軍需工業を拡大し、アウトバーン(自動車専用道路)建設のように大規模な社会的インフラストラクチャーの整備を進め、失業者の急激な減少をもたらし、1937年頃にはドイツでは失業者はほぼ一掃された。
- ④ イタリア＝ファシズムにならってナチスは、大規模なレジャー施設やレクリエーション組織、福祉事業を整備した。

**E** ナチ党は重要な政策として、ヴェルサイユ体制の破壊をめざした。

- ① ヴェルサイユ条約でドイツはすべての植民地を失い、かすかすの国境地域を周辺国に割譲しなければならなかった。また、軍備制限、ラインラントの非武装化、巨額の賠償金支払いなど、ドイツを激しく圧迫する内容であった。
- ② ナチス＝ドイツは1933年に軍備平等権をめぐり国際連盟から脱退し、1935年には住民投票を経ずに、有力な炭鉱地帯であったザール地方を編入した。
- ③ 1935年にナチス＝ドイツが徴兵制の復活と再軍備を宣言すると、イギリス・フランス・イタリアは抗議した。しかし、同年6月、イギリスはドイツと海軍協定を結び、ドイツに事実上の再軍備を認めた。
- ④ 1936年、ナチス＝ドイツは仏ソ相互援助条約を理由に、1925年に結ばれたロカルノ条約を破棄して、非武装地帯とされていたラインラントに軍を進駐させた。

(ロ) 以下のF～Jに関する記述の中で、適切ではない文章の記号①～④を解答欄にマークしなさい。また、地名の前に①～⑭のアルファベットがふつてある場合には、以下の地図に示されている場所の適切さも判断しなさい。なお、地図は略図であり、そこに示されている国境線は現在のものである。



F 1937年以降、ナチス＝ドイツをめぐる問題についてはイギリスのチェンバレン首相の宥和政策の影響のもと、譲歩と話し合いによって解決がめざされた。

- ① ヒトラーはそれまでも東方生存圏の獲得について繰り返し提起していた。そして、1938年3月、ウィーン進駐を開始し、オーストリアを併合した。
- ② ヒトラーはドイツ系住民が多く住むチェコスロヴァキアのズデーテン地方のドイツへの割譲を要求した。
- ③ 1938年のミュンヘン会談に参加したチェコスロヴァキア代表が強固に反対をしたにもかかわらず、ズデーテン地方のドイツへの割譲が認められた。
- ④ ドイツは、ポーランドに対して⑧ダンツィヒ(現在のグダンスク)の返還と、ポーランド回廊を横切って東プロイセンにいたる陸上交通路を要求した。

- G 1939年5月以降、ソ連はナチス=ドイツと密かに交渉を進め、8月に独ソ不可侵条約を締結した。ポーランドはイギリス・フランスと共にドイツに対抗するための動員令を出した。
- ① 1939年9月1日、ドイツ軍はポーランドに侵入し、その後、イギリスとフランスがドイツに宣戦布告し、第二次世界大戦が始まった。ソ連も9月17日フィンランドに侵攻し、つづいて独ソ不可侵条約の秘密議定書に従って、ポーランドに侵入し分割した。
  - ② イギリスでは1940年5月、ネヴィル=チェンバレンにかわりチャーチルが首相になり、イギリス本土への激しい空襲をしのぎ、イギリス空軍は制空権を守り抜いた。
  - ③ 1940年4月にドイツ軍は、デンマーク・ノルウェーに侵入し、占領した。その後、ドイツ軍は、ルクセンブルク・ベルギー・オランダ・フランスに侵攻した。戦車と航空機によって強化されたドイツ軍に追いつめられた英・仏軍は、⑤ダンケルクでかろうじて撤退できた。
  - ④ 1940年6月、パリはドイツ軍によって占領され、ペタンが新政府を樹立してドイツに降伏した。新政府は首都を④ヴィシーにおいた。このドイツに協力的な政府を、ヴィシー政府と呼ぶ。他方ロンドンでド=ゴールは、自由フランス政府を結成した。

H ナチス=ドイツは次第にヨーロッパ大陸の大部分を支配するようになった。そしてファシズム諸国は1940年9月、日独伊三国同盟を結び結束を固めた。

- ① 1941年6月22日、ドイツは不可侵条約を無視してソ連を奇襲した。これを「バルバロッサ作戦」と呼ぶ。
- ② ソ連は硬直した作戦指導と旧式の装備のために敗北をかさねた。ソ連は、戦争を伝統的愛国心を喚起する「大祖国戦争」と名づけ、共産党のもとに結束して戦うよう訴えた。
- ③ ドイツ軍は1941年末には④モスクワに迫ったが、ソ連軍はこの攻防戦を持ちこたえ、スターリンはドイツ軍への反攻を指示した。
- ④ 独ソ戦が始まった後にユダヤ人に対する大量殺戮政策が本格化し、①アウシュヴィッツなどの強制収容所に移送され、殺害された。また、ロマや共産主義者、さらには性的マイノリティなども過酷な扱いを受けた。



I 1942年1月、大西洋憲章を基礎にアメリカ・イギリス・ソ連・中国などが連合国共同宣言に調印し、ファシズム打倒のために協力することで一致した。

① この調印後、第二次世界大戦は枢軸国(ファシズム陣営)対連合国(反ファシズム陣営)の様相を強めた。1942年後半には連合軍は総反撃に転じ、スターリングラードの攻防戦で翌年ドイツ軍はソ連軍に降伏した。

② 1943年にシチリア島に連合軍が上陸すると、イタリア国内でも軍部やファシスト党内部でムッソリーニへの反抗者が現れ、彼は国王に解任されて幽閉された。連合軍がイタリア本土に上陸すると、イタリア新政府(バドリオ政府)は無条件降伏を申し出た。

③ 1943年、ローズヴェルトとチャーチルはカサブランカで会談し、枢軸国に無条件降伏を要求する提案がなされた。その後、ローズヴェルト・チャーチル・スターリンは、テヘランで会談し、連合軍による北フランス上陸作戦を決定した。これに基づき、翌年、連合軍はアイゼンハワーを総司令官としてノルマンディーに上陸した。

④ 1945年2月、アメリカ・イギリス・ソ連の3国首脳は③ヤルタで会談し、ヤルタ協定を結んでドイツや東欧の戦後処理の概要と、秘密条項としてドイツ降伏後のソ連の対日参戦などを決めた。

J 連合軍は1944年8月にパリに入り、ド=ゴールは臨時政府を樹立した。ソ連軍も大攻勢をかけ、ドイツ本土へと迫った。

① 1945年4月末、④ベルリンを包囲していたソ連軍はベルリン市内へと侵攻し、地下壕に追いつめられたヒトラーは自殺した。同年5月、ドイツは連合国軍に無条件降伏した。

② ユーゴスラビアではティトーが率いる対独パルチザンが、ソ連軍の全面的支援を受けて、ドイツ軍を駆逐した。

③ 1945年夏、米・英・ソの首脳は、ベルリン郊外のポツダムの宮殿で会談し、ドイツとベルリン市の分割占領と共同管理の方法について合意した。

④ 日本に無条件降伏を勧告するポツダム宣言が発表されたが、日本政府はこれを黙殺した。その後、アメリカは8月6日に広島、9日には長崎に原子爆弾を投下して両都市を壊滅させた。ソ連は日ソ中立条約を無視して日本に宣戦した。これらの結果、日本はポツダム宣言を受諾した。

